

リンゴ病(?) ？ 確定 併発 あさいこどもクリニック

パルボウイルスによる感染症で、溶血性貧血・再生不良性貧血の病気をもっている子供さん以外は 特に大きな問題をおこすことなく 自然に治っていきます

自然経過： 発疹のでる10日（7-14日）前に38.0前後の発熱が1日あって、その回復期の症状として発疹がでると考えられています 発疹のでている時期には 発熱咳鼻水などの風邪症状はなくパルボウイルスも
検出されません 小学生幼児に多くみられます 一生涯の免疫ができます

典型的な発疹： 両側の頬ホホが数日のうちにリンゴのように赤くなっていきま
上腕部と大腿部に 淡く赤いもやもやとしたレース状の発疹がでたりしますその発疹も7日前後（成人は2週間）つづいたのち 消えていきます
かゆみは軽度です（蕁麻疹のような強いかゆみはありません）
発疹が腫れて盛り上がることも ほぼありません
やや強めの場合は胸おなか背中にも発疹がでますが、 腕や脚よりも多い場合は ノドのウイルス/溶連菌にともなう発疹や 風疹ウイルスetcといった感染症を考えた方がいいでしょう

治療： とくに薬は必要ありません 入浴： 可（発疹のある間は長湯を控えておく）

学校、幼稚園の出席停止は … 理論的には典型的な発疹のみられる時期には パルボウイルスは体内にいない になるので 出席は可能です
が、頬を真っ赤にしながらか出席すると他人に不必要な不安をあたえることになるので、発疹の赤みが強い数日間だけ欠席してもいいでしょう
予防接種は …発疹がではじめて 2週間ほどしてから 残っているワクチンあればする
といいでしょう

注意すること

- ① 以前から溶血性貧血、再生不良性貧血の病気を持っている子供さんは
リンゴ病が流行している時期は要注意です。 発熱筋肉痛とともに、貧血・白血球減少・血小板減少が急激にすすみます ◆ 上記持病のある方は 貧血の増悪、発熱の持続、出血傾向（止まりにくい鼻出血、青いあざの多発）が急激にすすむので要注意です
- ② 関節炎症状（関節が腫れたり、痛がったり）は
子供は 成人と比べて症状は軽く その頻度も5%くらいです
（成人は50%といわれています） 冷湿布/ヒエピタの貼付で 様子みます
- ③ 妊娠初期の妊婦さんでは
小児期にリンゴ病パルボウイルスにかかっている妊婦さんが 妊娠3-5ヶ月時にパルボウイルスにかかると、30%の胎児が胎児水腫となり流産になります
妊婦さんはリンゴ病の流行している時期に子供さんに発熱がみられたときはリンゴ病の発疹のでる前の発熱期のことも考えられるので、発熱のあと2-3日間は唾液接触をできるだけ避けましょう（子供の食べ残しをたべたり、スプーンの共用など）
- ④ 発疹のでている時期に 風邪症状がみられるときは 併発
たまたま何らかの風邪症状をおこす微生物と一緒にもらっていることが考えられます
その風邪症状に対する治療が必要な場合は その薬を内服するといいでしょう

⑤ ごくまれに 腎炎・甲状腺機能低下・自己免疫病 につながっていく方がみられます

倦怠感がつづくようなら 検尿・採血することがあります